



◀えさをついばむはやぶさのひな

カナダ、国連安保理事国に選出

カナダは、十月二十一日、西ドイツ、インド、ベネズエラ、モリシヤスと共に、国連安全保障理事会の理事国に選出された。任期は来年一月一日から一九七八年の末まで。

カナダが同理事会の理事国に選ばれるのは、一九四八―四九年、一九五八―五九年、一九六七―六八年について四度目。理事会は中国、フランス、ソ連、イギリス、米国の五常任理事国と非常任理事国十カ国で構成されているが、西側諸国のうち四度も非常任理事国に選出されるのは前例がない。

玉川学園がカナダに分校

東京都町田市にある私立玉川学園（小原哲郎理事長）は、今年のはじめプリティッシュ・コロンビア州バンクーバー島のナイモ市近辺に三十三万平方メートルの土地を購入した。同学園では、地域の農場や大学などと協力して、そこを農業実験と教育交流の場にする構想。手始めに来春には一家族を送って農場実習のための土地の下調べを行う。夏は小中学生約五〇人が現地にて英語を勉強するほか、文化交流を図る考えである。

はばたけ、はやぶさ ひなを育てて大空へ

最高時速百二十キロで飛び、古くからたか狩りに使われてきた。はやぶさ。この鳥も、農薬などの利用で絶滅の危機に瀕しているが、カナダ野生動物保護協会では、生捕りにしたはやぶさに卵を生ませ、ふ化したひなを育てて

放すという方法によって、その数を少しずつ増やそうと試みている。今年だけで四〇羽以上のはやぶさが大空に飛びたった。大自然の中では危険も多いが、こうして飛んでいったはやぶさの何羽かが卵を生み、次々と種族を大きくしていくことに、協会の人たちは望みをかけている。

効率的な排煙浄化技術 カナダの研究員が開発

鑄鉄工場などの排煙を浄化する新技術が、カナダ鉱業・エネルギー技術センターの研究員たちによって開発された。このろ過装置は、石灰石や砂利、石灰など安価な粒状物質を円柱状に詰められているため経済的。また実験の結果、ほこりを〇・〇一二ミリの微片にいたるまでほとんど完全に（九九・九パーセント）とらえるほど、効率もきわめて高いことが証明されている。

BC州から経済使節団 日本と大幅貿易拡大を希望

プリティッシュ・コロンビア州から、十一月、ドンナルド・フィリップス経済開発大臣を団長とする経済使節団が来日した。一行は、滞在中、日本の政府・民間関係者と会い、貿易、輸送、北部開発、港湾施設、労使関係、鉄鋼、石炭、農業、林産物、非鉄金属、観光、外資政策などについて話合った。

この中で、経済開発大臣らは、社会信用政権の諸政策を説明し、同州が日本の大幅な貿易拡大を希望していることを強調した。また日本側から、同州における労使関係や税制、外資政策に対し、率直な懸念が表明された。同州と日本側は、



ドンナルド・フィリップス
BC州経済開発大臣

広範にわたる相互協力の分野を確認し、技術交流およびコミュニケーションの円滑化の必要性について合意した。日本の製鉄所によるBC州原料炭の追加購入については、州内および連邦政府との協議のあと発表されるが、同州としては対日石炭輸出を大幅にふやしたい意向である。なお、同州が日本鋼管と策問を進めてきた一貫製鉄所建設計画に関する企業化調査は、鉄鋼需要が改善されるまで中止されることになった。

人事往来

○外務省経済使節団（団長・横田久生 日本鋼管社長）がカナダ各地を訪問し、連邦、各州政府首脳および民間経済界指導層と会談、日加貿易経済問題について意見を交換。（十月二十四日―十一月四日）

○BC州民間経済使節団（団長・テル・アイ・イングストロイズ社社長クリステンセン氏）が輸出推進のため来日。（十一月二十七日）

○通産省がトロントで「昭和五十一年度海外商品別貿易会議・玩具貿易会議」を開催。（十二月一、二日）

○東京交響楽団、バンクーバーなど、北アメリカ、メキシコ各地で演奏。（九月―十月）

アンケートについて

●七月にアンケートをお願いしましたところ、沢山のご回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。

●しかも、多くの方がコメントを寄せて下さいました。コメントのほとんどは、きわめて好意的なものでした。「読みやすい」「親しみやすい編集」というものから、「カナダを知るのに大いに役立つ」「日加関係は日米関係に比較して、その重要性の割には十分アピールされていません。その点で、貴紙の一層の充実を望みます」「月刊にして欲しい」などの賛辞や激励の言葉をいただきました。

●一方、「漢字が多くて読みにくい」「内容がかたすぎる」「あまりにきれい」ごだけで、公式の記事ばかり多い」というようなご指摘もありました。

●今後の内容についても、数多くのご要望をいただきました。当広報部としては、本紙が内容的に一応評価されていることに意を強くしておりますが、ご指摘のような問題もあり、アンケートの結果を参考に、改善すべきところは改善していきたいと考えております。読者各位の、なお一層のご協力をお願いします。

広報部

本紙は、カナダ大使館から二カ月に一回発行されます。本紙掲載内容の転用、転載は自由ですが、その際は出典を明らかにして下さい。なお、ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

東京都港区赤坂七丁目三番二八号
カナダ大使館広報部